

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



11月の銅の概況及び12月の見通し (3)

予想レンジ

LMEセツル	7,000-8,000ドル	☀
建値	770-890円	☀
為替	104~106円	☂
円高 (1か月間TTM)		

■国内概況まとめ

【伸銅品生産】

10月伸銅品生産は、前年比-6%の5万9,289 t、23か月連続減少。

銅条は、前年同月比2.5%増。6ヶ月ぶりプラス。

黄銅棒は、前年同月比11.2%減少。15ヶ月連続のマイナス。

【電線】

前年比-7.8%の56,000 t。

内訳は、国内が-7.3%、輸出が-30.7%。

【輸出】

電気銅輸出が+61%の5万6,945 t。

銅スクラップが+36.8%の3万4,456 t。

【輸入】

電気銅輸入が-8.7%の1,194 t。

銅スクラップが+9.8%の1万1,907 t。

【見通し】

【自動車】

10月の自動車生産が+8.6%。11月国内販売台数が前年比+6%。

新 断
新ダライ

高価買取します。

(株)エイワ産業

〒577-0536 東大阪市渋川町 2-2-2

☎ 06-7891-8180

FAX 06-7891-8170

アルミニウム地金

アルミニウム原料

熟練ポット炉技術で歩留まり UP!

井関金属株式会社

代表取締役 井関親亮

〒587-0021 大阪府堺市美原区小平尾 407

☎ 072-361-3333 fax 072-362-7667

生産・販売ともに増加、今後を期待。

【伸銅品生産】

10月伸銅品生産は、前年比-6%の5万9,289 t、23か月連続減少。

ただ、伸銅品の需要に結びつく小型電子機器や自動車関連の生産に回復の兆しが見え始めてきた。そのため、10月の公表値にも、こうした関連の伸銅品を中心に一部前年同月実績を上回る品種が増えてきた。

一方、工事関連の機器が需要の回復が遅れている。

【電線】

前年比-7.8%の56,000 t。

内訳は、国内が-7.3%、輸出が-30.7%。

減少幅が収まってきた。今後を期待。

銅輸出は、米中景気の回復期待需要から共に増加。

銅輸入は、思ったほど国内生産は落ちてない事からスクラップは増加。電気銅は割高感から減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は、銅建値が75万円から81万円まで上昇したため玉は潤沢。

需要面に関しては国内自動車販売の回復などの好材料もあるが、建設系の需要が低迷してる事から上物は荷余り感あり。

【LME・為替予想】

今月は欧米コロナワクチン問題、欧米の経済対策の動向に左右される。

欧米の景気対策に関しては感染拡大による景気の悪化をフォローする形で出される可能性が高く、景気後退が一方向的に進む可能性は低い。

コロナワクチンの動向に関しては、ロシア以外のワクチンは臨床実験済みであり今週から英国で開始される。このことから、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかるのではないかと。

これらを踏まえた11月の銅価格は7,000-8,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は、104円~106円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては、770-890円程度と予測している。

日刊金属

6カ月:46,200円

外電配信料
(税込)

12カ月:92,400円